

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																														
山脇美術専門学校		昭和51年6月1日		川上 信昭		〒 102-0074 (住所) 東京都千代田区九段南4-8-21 (電話) 03-3264-4020																														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																														
学校法人山脇服飾美術学院		昭和22年11月17日		清水 カツ子		〒 102-0074 (住所) 東京都千代田区九段南4-8-21 (電話) 03-3264-4020																														
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
文化・教養	美術専門課程	ジュエリーデザイン科	平成29(2017)年度	-	令和 5(2023)年度																															
学科の目的	ジュエリーデザイナーやクラフトマンなどジュエリーデザイン分野に従事しようとする者に、企業等と連携の上で専門性の高い知識及び技術・技能を修得させるとともに感性豊かな即戦力を育み社会に貢献出来る人材を輩出する事を目的とする。																																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	伝統彫金からハイジュエリー製作まで幅広く学修し、ジュエリーコーディネーター検定、貴金属装身具製作技能検定の取得を目標とし、ジュエリー製作のクラフトマン、ジュエリーデザイナーとしての就職を目指す。中退率は2%程度で進路変更が主な理由である。																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																												
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 3,150 単位時間 〇〇 単位		180 単位時間 〇〇 単位	600 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	3,378 単位時間 〇〇 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)																																
45人	41人	0人		0%																																
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>12</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>11</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>11</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>10</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>91</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>92</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>卒業生のうち1名は非正規雇用(アルバイト)</p> <p>(令和 4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) ジュエリーブランド企業、ジュエリー製作工房他。</p>								■卒業者数(C)	12	人	■就職希望者数(D)	11	人	■就職者数(E)	11	人	■地元就職者数(F)	10	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	91	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	92	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	12	人																																		
■就職希望者数(D)	11	人																																		
■就職者数(E)	11	人																																		
■地元就職者数(F)	10	人																																		
■就職率(E/D)	100	%																																		
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	91	%																																		
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	92	%																																		
■進学者数	0	人																																		
■その他																																				
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 〇〇〇〇 受審年月: 〇年〇月 評価結果を掲載したホームページURL 〇〇〇〇</p>																																			
当該学科のホームページURL	https://yamawaki.ac.jp/introduction/jewelry/																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>3,150 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>588 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>294 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,814 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>252 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>294 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>〇〇 単位</td></tr> </table>								総授業時数	3,150 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	588 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	294 単位時間	うち必修授業時数	2,814 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	252 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	294 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位	うち必修授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位
総授業時数	3,150 単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	588 単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	294 単位時間																																			
うち必修授業時数	2,814 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	252 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	294 単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																			
総授業時数	〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位																																			
うち必修授業時数	〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位																																			
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>3人</p>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	4人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																			
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																			
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																			
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																			
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																			
計	4人																																			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校は建学の理念である「美と創造の精神」の完成を目指し、豊かな情緒と個性的な想像力を身に付けた人材を育成するための教育の実践を教育目標としている。この目標達成のために、基礎的知識・技術から専門的知識・技術まで修得し、業界の最新情報を把握し、各企業等で即戦力として活躍できる高度な知識・技術を持った実践力のある人材を育成するための教育課程を編成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は学校長のもとに設置し、本校の教育課程や職業実践及び企業との連携等について諮り、意見・要望等については教務課を担当部署として検討し、これら意見・要望等および検討結果は教務課長と学科長が調整・協議したのち、学校長の許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
山田 祐照	一般社団法人日本空間デザイン協会 理事	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	①
田崎 冬樹	横浜美術大学美術学部美術デザイン学科准教授	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	②
高橋 夏奈	株式会社アダストリア	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
左 知子	HASAS	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	③
樋口 誠	株式会社ネオタイト建築計画	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	③
相庭 聡	株式会社ケイ・ウノ	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	③
臼井 康祐	株式会社スーパーギルド	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
川上 信昭	山脇美術専門学校 学校長(全体会委員長)	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	—
富永 文	同 ジュエリーデザイン科 科長(分科会委員長)	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	—
篠原 一郎	同 教務課 課長(ジュエリーデザイン科講師)	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	—
杉山 千尋	同 教務課 専任(ジュエリーデザイン科助手)	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月2日 15:00～16:50

第2回 令和5年3月3日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回委員会

①学生作品が一室に揃う山脇祭の展示を視察し、実際に成果物を見ながら学生の習熟度や制作プロセス等について具体的な意見や講評をいただいた。その後、科内や学生へフィードバックして意見を反映した。

②職業教育の実践について、「業界動向」などを踏まえて、実践的な意見交換が行われた。具体的な協議や意見として、「学生の働き方意識の変化を受け、就職活動においても働き方や残業時間について質問する学生が増えている。」「週3日勤務など多様な働き方を希望する学生も増えている。」「実際の就職活動面接のポートフォリオについては、センスを感じられないものや、量が多すぎてアピールにならないものがある。」「ポートフォリオの意見を受けて、山脇では課題数が多いことを考慮し、「自宅で出来る写真撮影を学ぶ内容を追加」、「写真集のような作りで会社のニーズに合わせて持っていけるよう指導」、「ポートフォリオ制作を授業内容へ追加」などの取り組みをおこなっている。また、職業教育の実践として、2年生向けのインターン受け入れをおこないはじめて、順次決まっている。このほか、求人情報の提供や、ジュエリー関連企業、海外のライブコマースなどについて情報交換が行われた。

第2回委員会

①企業連携の在り方について

これまでの取り組みの進捗状況や成果として、今年度の企業との連携した内容の報告があり、今後も学生のスキルアップや就職支援の向上に繋がっていきたいとの意向が示された。今後の取り組みについては、令和5年度に決定している連携授業の報告の後、以下の意見交換があった。

「ケイ・ウノで実施したインターンでは、学生がお客様にインタビューし、ニーズを引き出してデザイン提案を行うオーダーメイド体験を行った。インターンでは、学生がコミュニケーション能力を身につけることができるように、厳しい指摘を行うことを心がけた。」「過去には、レンダリングの授業で学生がお客様や会社のMDを想定してデザイン提案をする課題を行っていた。今後の連携では、学生が受け身ではなくアクションを起こせるような内容を検討する。」「オーダー体験やCAD実演など、職業に踏み込んだ内容の連携も検討する」

②業界動向や企業の求める人材について

本校と他校での技能検定の取り組みなど情報交換をした。また、スキルや資格などについて次の意見があった。「ケイ・ウノでは、スキルや資格よりも、心構えやコミュニケーションを重視している。」「コロナ禍におけるコミュニケーション不足も感じる、グループワークの機会を増やし働く事に対する意識付けを日々の中でおこないたい。」「カリキュラム、シラバスの改善点について、前回委員会にて指摘があった面接時に学生が持参するポートフォリオについての報告があった。「実際に授業内にポートフォリオ制作を追加。マーケティングや企画をされている講師に考え方からご指導いただき、ポートフォリオを再構築した。ポートフォリオの完成タイミングも早まり、就職活動にスムーズに移行が可能となった。」新卒採用面接内で感じる学生の傾向についての意見があった。「働き方や会社の在り方を気にする傾向が高い。個人制作・副業希望者が多い。優秀な社員の流出も防ぎたい。良い人材を集めるにも個人活動の禁止を変えていく事が必要な時になってきた。社員のスキルアップにもなる部活動のような場で学生と社員が繋がると良い。企業連携を学生の為だけでなく社員の為にも活用したい。」

③卒業進級展の視察

展示作品(卒業制作、進級制作、後期課題作品)を見ながら科長より課題や学生個々についての説明があり、具体的な意見や講評をいただいた。他社や他校との関わりの中での出来事を共有し、一般的な学生の状況を把握することができた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

・「職業教育に係る連携授業の実施に関する内規」に基づき、関連分野の職業に係る勤労観及び継続的な学習意欲の醸成と、専門分野の実務に必要となる知識、技術及び技能の修得又は向上に資する教育等を内容とする。
・デザインに関する実践的な授業内容の改善・工夫のために、授業における作品制作の課題設定やプレゼンテーションを行うにあたり、教育内容に関連するノウハウ等の提供などの協力が得られる企業を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

・「職業教育に係る連携協定書」に基づき、関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導担当者として人材の派遣を受ける。
・授業科目担当教員と企業の講師が、授業の前に事前打ち合わせを行い、講義・実技指導などの内容や、学修成果の達成度評価指標等について定める。企業の講師が作品企画の着眼点や課題の制作での専門性の高い助言や技術指導を行うなど担当教員と連携しながら授業運営を行う。
・企業の講師から得られた助言等を生かし、進行チェックでの完成度、テーマ及びプレゼンテーション資料の充実度・完成度、企画プレゼンテーションの発表内容などの評価項目をあらかじめ設定し、それぞれについて評価を行うこととしている。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ジュエリービジネス概論	制作以外の職種や業界の事情についての理解を深めるとともに、企業やジュエリー業界の一員としての自覚を持って働く意識を芽生えさせることで、高いモチベーションを持って仕事に取り組むことができる職人の養成に寄与する。	①株式会社サザビーリーグ エーアンドエス カンパニー ②(株)エフ・ディ・シー・プロダクツ
レポートファイル制作・見学1	①クラフトマンとして勤務する卒業生が実際に勤務する店舗工房を見学し、WAXモデリング、コンビネーションリングの酸素溶接の見学、また、レーザー溶接機の実習を体験した。実際の現場の環境の中で加工を体験し、ジュエリー業界の一員としての自覚を持って働く意識を芽生えさせる。また、就職活動と、就職後の勤務意識の向上を図る狙い。 ②店舗を構えない販売方法で展開しているデザイナーズブランドの活動、商品を知る。学生が進路を考える材料のひとつにする。	①株式会社ケイウノ ②solabo jewelry
レポート・ファイル制作・見学2	①クラフトマンとして勤務する卒業生が実際に勤務する店舗工房を見学し、WAXモデリング、コンビネーションリングの酸素溶接の見学、また、レーザー溶接機の実習を体験した。実際の現場の環境の中で加工を体験し、ジュエリー業界の一員としての自覚を持って働く意識を芽生えさせる。また、就職活動と、就職後の勤務意識の向上を図る狙い。 ②店舗を構えない販売方法で展開しているデザイナーズブランドの活動、商品を知る。学生が進路を考える材料のひとつにする。	①株式会社ケイウノ ②solabo jewelry
研究制作1	授業課題を基に学びを深める自主制作活動、企業訪問、展覧会見学、就職活動準備をする事を目的とする。パール会社の職人が出向し、高級パールの連組みで必要となる「オールノット法」の実習をした。なお、日本国内のあこやパールの養殖場の時事と、SDGsに向けた室内養殖の取り組みについての講義を受け、認知を深める。	株式会社 タマ
日本伝統彫金研究	卒業制作として制作している銅製器物について、担当講師の師匠である浅井氏の指導を受け、完成度を向上させる。	公益社団法人 日本工芸会正会員 金工部会評議員 浅井 盛征

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「山脇美術専門学校教員研修内規」に則り、教員に対し現在就いている教育職又は、将来就くことが予想される教育職に係る職務の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その遂行に必要な教員の能力及び資質の向上を図ることを目的とする。

教員に対する研修の必要性を把握するとともに、教員の自己啓発の意欲を発揮させるように配慮し、研修計画に基づく研修を実施する。

研修の参加については、職務内容や経験年数を考慮したうえで、学校長が指示する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「銀線細工」後世に継承したい伝統技術の技法と魅力にせまる	連携企業等:	公益社団法人 日本ジュエリーデザイナー協会
期間:	令和4年8月31日(金)	対象:	ジュエリーデザイン科の教職員
内容:	秋田銀線細工に焦点をあてて、「歴史」「技法・製作工程」のレクチャーと「作品・作家」の紹介。また、銀線細工の課題点と改善点を考察する。		
研修名:	JJAジュエリーデザインアワード説明会とグランプリ受賞デザイナーが語るコンテストの魅力	連携企業等:	公益社団法人 日本ジュエリーデザイナー協会
期間:	令和4年8月31日(金)	対象:	ジュエリーデザイン科の教職員
内容:	JJAジュエリーデザインアワード2023の応募要項についての説明。JJAグランプリ受賞デザイナー小寺智子氏が語るコンテストの魅力。質疑応答。		
研修名:	「金属工芸の煮色着色仕上げの保存・伝承」令和4年度研修会	連携企業等:	文化庁 (金属煮色着色 文化財保存技術伝承事業)
期間:	令和4年11月12日(土)	対象:	ジュエリーデザイン科の教職員
内容:	金属工芸の煮色着色仕上げの保存・伝承のため研修会、技術の伝承、研究に取り組む。工程の解説をしながら実際に煮色着色を完成まで行う。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	「PSAフィードバック講習会」	連携企業等:	株式会社ヒューマン・キャピタル・コンサルティング
期間:	令和4年7月27日(水)	対象:	全教職員
内容:	事前にPSAパーソナリティ診断を実施。学生は、診断結果をもとに、PSAの目的を理解する。自分の個性を掴み、活かしのヒントを得る。教職員は、学生指導の精度を高めるための手がかりとして活用する。学生のやる気を高める関わり方や信頼関係を築くヒントを得る。講習後に意見交換会を行い、具体的な指導や対応方法などを教授する。		
研修名:	FCEエデュケーションセミナー 「『やり抜く力』を伸ばす」	連携企業等:	株式会社FCEエデュケーション
期間:	令和4年10月12日(水)	対象:	全教職員
内容:	具体的な専門学校の取り組み事例を受けて、学生の自己肯定感を高める工夫や、教員のコーチングへ取り入れるスキルを学ぶ。「学生の非認知能力についての悩み」、「教員の指導についての悩み」の事案紹介。セルフコーチングについての説明。他校の取り組み事例などの紹介(動画視聴)		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「金属工芸の煮色着色仕上げの保存・伝承」令和5年度研修会	連携企業等:	文化庁 (金属煮色着色 文化財保存技術伝承事業)
期間:	令和5年10月14日(土)	対象:	ジュエリーデザイン科の教職員
内容	金属工芸の煮色着色仕上げの保存・伝承のため研修会、技術の伝承、研究に取り組む。工程の解説をしながら実際に煮色着色を完成まで行う。		

研修名:	ジュエリーデザイン関連のセミナー(第35回国際宝飾展)	連携企業等:	公益社団法人 日本ジュエリーデザイナー協会 RX Japan株式会社
期間:	令和6年1月7日～1月20日の間	対象:	ジュエリーデザイン科の教職員
内容	日本最大の宝石の展示会で同時開催されるジュエリーデザインに関連する様々なセミナーの中から、学校や学生にフィードバックできる内容のセミナーに参加予定。		

研修名:	デザイナー向けAdobeアプリケーション関連のセミナー	連携企業等:	株式会社Too
期間:	令和5年4月～令和6年3月の間	対象:	全教職員
内容	Adobe PhotoshopやAdobe Illustratorなど操作に関すること、作業効率上がる最新の情報提供など、具体的なデモンストレーション交えながらのセミナーなど。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	PSAフィードバック講習会	連携企業等:	株式会社 ヒューマン・キャピタル・コンサルティング
期間:	令和5年7月27日(木)	対象:	全教職員
内容	事前にPSAパーソナリティ診断を実施。学生は、診断結果をもとに、PSAの目的を理解する。自分の個性を掴み、活かしのヒントを得る。教職員は、学生指導の精度を高めるための手がかりとして活用する。学生のやる気を高める関わり方や信頼関係を築くヒントを得る。講習後に意見交換会を行い、具体的な指導や対応方法などを教授する。		

研修名:	メンタルヘルスサポート、コミュニケーション、コーチング研修など	連携企業等:	各種団体や企業が主催
期間:	令和5年4月から令和6年3月の間	対象:	全教職員
内容	コミュニケーションやメンタルヘルスケアに関わる研修やセミナーに1～2回受講予定。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため、学校が自己点検・自己評価を行う。実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価を行うことが目的となる。また卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、自己評価結果についての改善に向けた専門的な助言を受け、組織的・継続的な改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2) 学校運営(3) 事業計画(4) 運営組織
(3) 教育活動	(8) 教育活動(9) 教育方法・評価等
(4) 学修成果	(10) 成績評価・単位認定等(13) 学習成果(14) 資格・免許の取得率
(5) 学生支援	(11) 資格・免許取得の指導体制(16) 学生支援(18) 学生相談(19) 学生生活
(6) 教育環境	(22) 施設・設備等(23) 学外実習・インターンシップ等(24) 防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25) 学生の募集と受け入れ
(8) 財務	(28) 財務(29) 予算・収支計画(30) 監査(31) 財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32) 関係法令、設置基準等の遵守(33) 個人情報保護
(10) 社会貢献・地域貢献	(36) 社会貢献・地域貢献・国際交流
(11) 国際交流	(36) 社会貢献・地域貢献・国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者より「情報セキュリティ対策は適宜、アップロードしていくことが重要」との意見をいただき、個人情報などの情報管理を強化するため、学内サーバーへの各部署や役職ごとのアクセス権限を厳密にした。

「学外での就業体験により、学びと仕事の繋がりを理解できるカリキュラムがあると良い」との意見をいただき、企業連携授業の協定企業開拓に努め、令和4年度の13社(ビジュアルデザイン科2社、スペースデザイン科6社、ジュエリーデザイン科5社)から令和5年度はビジュアルデザイン科5社、スペースデザイン科3社、ジュエリーデザイン科1社を追加し、合計22社と企業連携協定を結び、職業実践的な授業が充実した。また、インターンシップ受け入れ企業の開拓と学内での企業説明会を増やした結果、インターンシップ参加学生が6人増加した。

「デザインが社会や地域にどのような形で貢献できるかを体感できるプログラムがあると良い」との意見をいただき、企業や団体の主催によるアンカットダイヤモンドコンテスト、ピンバッチコンテスト、大和市ポスターコンペへの出品を授業課題に取り入れるようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
久保寺健郎	九段振興組合 理事	令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年)	地域等委員
松尾貴之	株式会社スピリッツ プロデューサー	令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年)	企業等委員
今川清信	杜陵印刷株式会社 課長	令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年)	企業等委員
須藤加代子	会社員	令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年)	卒業生等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://yamawaki.ac.jp/pdf/openinfo/07gakkokankeishahyoka.pdf>

公表時期: 令和5年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教職員による学校の理念・目標に照らして自らの教育活動を評価した「自己評価」、及び「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に対応した項目を公開することにより、企業等の学校関係者から有益な助言を得ることで教育の質的な向上を図る。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	1, 学校の概要、教育目標
(2) 各学科等の教育	2, 教育方針と各学科の教育
(3) 教職員	3, 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	4, キャリア教育と就職支援、職業実践教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	5, さまざまな教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	6, 学生生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	7, 学費と経済的な支援
(8) 学校の財務	8, 財務情報
(9) 学校評価	9, 学校評価
(10) 国際連携の状況	〇〇〇〇〇
(11) その他	〇〇〇〇〇

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://yamawaki.ac.jp/pdf/openinfo/yamawaki-basic-information.pdf>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ジュエリーデザイン1	ジュエリーを実際に制作しながら道具の使い方や金具、チェーンの機能や取り付け方、型紙の取り方、身体との関係を学びます。	1 通	84			○	○			○		
2	○			ストーンセッティング1	石留めの構造を学び覆輪を作り覆輪留めをします。彫り留め技法（チョコ留め、ふせこみ、五光留め、ます留め、なわ留め等）を理解し数多く練習します。	1 通	84			○	○				○	
3	○			ジュエリー史研究	グループでジュエリー史の一端を研究し、発表します。グループワークを経験し物事の調べ方やプレゼン能力をアップします。	1 前	42		△	○		○			○	
4	○			ジュエリー造形1	ジュエリー制作に必要な基礎的な技術の練習及び制作します。	1 通	84				○	○				○
5	○			オブジェ1	オブジェ制作を通じて、ジュエリー制作にも応用可能な立体感覚や構造に関する考え方を学びます。銀製スプーンの制作を通じて、型打ちや打ち延べの技法を学びます。	1 前	42				○	○				○
6	○			日本伝統彫金1	日本に伝統的に伝わる彫金の技法、使用する工具、素材について学びます。	1 通	84				○	○				○
7	○			レンダリング1	ジュエリーデザインに必要な描写表現の基礎を学びます。	1 通	84			△	○	○			○	
8	○			レンダリングCG1	PCを使用したレンダリング(完成予想図)の制作に必要な基礎知識を学びます。	1 通	84				○	○				○
9	○			集中講義1	七宝、宝石研磨、キャストのテクニック、ロー型、ガラス実習、宝石学を学びます。	1 通	84		○		△	○				○
10	○			レポートファイル制作・見学1	授業で制作した課題についてレポートを作成します、学外見学、就活に役立つポートフォリオ作り、就活フォロー、山脇祭準備をします。	1 通	84			○		○	○	○		○
11	○			研究制作1	授業課題の予習復習、自主制作、見学、就職活動準備をします。	1 通	84		△		○	○		○	○	○
12	○			就職講座1	自分自身の適正に合った企業への就職するために、基本的なビジネススキルの習得と、業界職種の範囲の理解を行います。	1 通	27		○	△		○				○
13	○			進級制作	進級制作として、1年間で学んだ内容の集大成となる大作に取り組みます。	1 後	123					○	○			○
14	○			課外授業	入学式・ガイダンス、研修旅行、テーブルマナー、大掃除、学生作品展、山脇祭、芸術鑑賞、教養講座、東京都専門学校アート&デザイン展、卒業・進級制作展など。	1 通	60			○		○	○	○		
15	○			ジュエリーデザイン2	石座の仕組み、ジュエリーと身体との関係、ジュエリーの構造を理解しジュエリーを制作します。	2 通	84				○	○				○

16	○		ストーンセッティング2	石座の仕組みを理解し、実際に制作し石留めします。貴金属装身具製作技能検定3級試験課題リングの演習をします。	2通	84				○	○			○	
17	○		研究制作2	授業課題の予習復習、自主制作、見学、就職活動準備を行います。	2通	84				○	○			○	○
18	○		ジュエリービジネス概論	ジュエリーが顧客の手元に届くまでの一連の流れを「ビジネス」の視点で学びます。与えられたテーマで、チームで協力して自主的に調べ、発表し合う場とします。	2前	42		△	○		○			○	○
19	○		ジュエリー造形2	造形技法を学びます。線を使い、様々な造形法、また必要に応じた治具の作り方を習得します。効果的な加工、造形技法を用いて、各々の世界観を表現します。	2通	84				○	○			○	
20	○		日本伝統彫金2	日本の伝統的彫金技法（彫り・象嵌）を学びます。色上げ（各地金の）技術を学びます。	2通	84				○	○			○	
21	○		宝飾造形	難易度の高い手編みチェーン、金具を制作します。	2通	84				○	○			○	
22	○		ヨーロッパ伝統彫金	古代ヨーロッパの作品を数多く見て、その制作技法を推測してみます。その技法を使って、デザイン制作します。	2通	84				○	○			○	
23	○		レンダリング2	デザインプロセスの実践を通し、オリジナリティーのある発想力を養います。1年次のコンピュータでの制作経験を踏まえながら、更に様々な表現技法を学びます。	2後	42				○	○			○	
24	○		レンダリングCG2	プレゼンテーションに必要な、実践で求められる表現手法を展開する。デザインプロセスの実践を通し、オリジナリティーのある発想力を養います。	2通	42				○	○			○	
25	○		オブジェ2	オブジェ制作を通じて、立体的に思考する力を養います。	2前	42				○	○			○	
26	○		レポートファイル制作・見学2	授業で制作した課題についてレポートを作成します。学外見学、就活に役立つポートフォリオ作りや山脇祭準備をします。	2通	84			○		○			○	○
27	○		就職講座2	就活に関する基礎的な準備資料を早期に完成させます。	2通	27		○	△		○			○	
28	○		進級制作	進級制作として、2年間で学んだ内容の集大成となる大作に取り組みます。	2後	123				○	○			○	
29	○		課外授業	入学式・ガイダンス、研修旅行、テーブルマナー、大掃除、学生作品展、山脇祭、芸術鑑賞、教養講座、東京都専門学校アート&デザイン展、卒業・進級制作展など。	2通	60			○		○	○	○		
30	○		ハイジュエリー	貴金属、宝石、ジュエリー製品の取り扱いや法規、仕入れ方法、流通を学びます。	3前	42		○			○			○	
31	○		ジュエリー造形3	チェーンメールジュエリーの制作、テストを合わせたオリジナルクラスプを作ります。ジョイントのデザイン性を考えたネックレスを制作をします。	3通	84				○	○			○	
32	○		日本伝統彫金3	金属を伸縮する為の技術修得、及び道具選びの修得。物をしっかり観察する目を養い、成形する為の技術を修得、及び色金の組み合わせを修得。	3通	84				○	○			○	
33	○		ストーンセッティング3	「連座」を理解し、石座同士が接する場合の留め方を学びます。全体のデザインに合ったオリジナリティーのある留め方を考えます。	3後	42				○	○			○	

34	○		集中講義3	七宝、キャスト、CADの高度なテクニックを学びます。	3通	84		△		○	○			○	
35		○	日本伝統彫金研究	金具の制作を通して、日本の伝統的な色かねや技法について学びます。器物の制作を通して、日本の伝統的な色かねや技法について学びます。	3通	336				○	○			○	○
36		○	ジュエリー制作のための素材研究	ジュエリー及びアクセサリー制作における造形用素材の研究をテーマとして取り組みます。各自が取り組む素材を用い、ジュエリー、クラフト作品の制作に取り組みます。	3通	336				○	○			○	
37		○	コンテンポラリージュエリー	自由な発想によるオリジナルジュエリーの制作をします。	3通	336				○	○			○	
38		○	ブランディング	ブランドの研究。市場を研究した上で、ジュエリーをデザインします。シリーズで作成し、販売促進までを研究します（HP、DM、POP、ディスプレイ）。	3通	336				○	○			○	
39	○		卒業制作	卒業制作として、3年間で学んだ内容の集大成となる大作に取り組みます。	3後	150				○	○			○	
40	○		レポート&ファイル制作・見学・就職講座3	授業で制作した課題についてレポートを作成する、見学、授業フォロー。就活に役立つポートフォリオ作り、就活フォロー。山脇祭準備。	3通	84			○		○	○		○	○
41	○		研究制作3	授業課題の予習復習、自主制作、見学、就職活動準備。	3通	84				○	○			○	○
42	○		課外授業	入学式・ガイダンス、研修旅行、テーブルマナー、大掃除、学生作品展、山脇祭、芸術鑑賞、教養講座、東京都専門学校アート&デザイン展、卒業・進級制作展など。	3通	60			○		○		○		
合計					42	科目	4158 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：出席率が80%以上であること、課題の提出が100%であること、学年の全科目の成績が60点以上であること、学費等納付金が完済であること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：1年生は必修授業1050時間、2年生は必修授業1050時間、3年生は必修授業714時間・選択授業より1科目336時間を履修する。		1学期の授業期間	18週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。